



「航空人材の育成を進め、県内で貴重な航空インフラを遺した^{のこ}い」と語るのは、恵那市山岡町の旧エアフィールド山岡で「キャリアオ山岡トランサム場外飛行場」の整備を進めるトランサム(海津市海津町平原)の江上行宏社長(47)。同飛行場は4月に恵那市から使用許可を得た。

超軽量飛行機(ウルトラライト

近況

航空インフラを県内に

ブレーン・ULP)クラブの運営などを手がけるキャリアオ技研(名古屋市)の関連会社。名古屋空港から約20分、飛行機で約12分という同飛行場の立地を生かし、ULP飛行クラブの運営や将来の空飛ぶ車の実証実験誘致を計画しており、「まずはここで飛行体験をしてもらい本格的なパイロットを目指してもらいたい」と意気込む。

空飛ぶ車の実用化を見据え、11月に木造3階建ての管制室兼本社ビルも完成予定。「空の移動革命は、もうすぐそこまで来ている。まずは地域の人や若い人たちが航空に触れる機会をつくれたら」と先を見つめる。